

6 誰のために利用するか（個人の場合のみ。複数回答可）

いずれのサービスについても、本人又は同居している家族のために利用している割合が85%を超えているが、「高齢者、児童等の所在不明時の緊急通報サービス」については、本人又は同居している家族のために利用しているという割合が65.1%に止まった。

また、いずれのサービスについても、別居している家族、親族のために利用している割合は10数%から20数%の間であった。

なお、「路上その他の外出先における犯罪、事故等又はそのおそれがあるときの緊急通報サービス」については、高齢者又は障害者のために利用すると回答した人の割合が12.0%なのに対し、児童のために利用するとした人が8.5%、「高齢者、児童等の所在不明時の緊急通報サービス」については、高齢者又は障害者のために利用すると回答した人の割合が26.0%なのに対し、児童のために利用するとした人が19.3%であった。

このようなことから、所在不明時や外出先における犯罪等にあつたときなどの緊急通報サービスの対象については、必ずしも高齢者に限らず、児童についてもニーズがあることがうかがわれる。

	該当者	杖・雨傘	眼鏡・靴	高齢、高齢	児童	その他	無回答	回答計
どろぼう等不審者侵入時の緊急通報サービス	216 100.0	204 94.4	37 17.1	17 7.9	9 4.2	3 1.4	2 0.9	272 125.9
ガス漏れ・火災等発生時の緊急通報サービス	220 100.0	206 93.6	37 16.8	18 8.2	10 4.5	7 3.2	3 1.4	281 127.7
自宅における急病時等の緊急通報サービス	220 100.0	188 85.5	53 24.1	42 19.1	8 3.6	3 1.4	3 1.4	297 135.0
路上その他外出先での急病時等の緊急通報サービス	203 100.0	173 85.2	44 21.7	42 20.7	12 5.9	2 1.0	2 1.0	275 135.5
路上その他外出先での犯罪被害、事故等又はそのおそれのあるときの緊急通報サービス	200 100.0	183 91.5	46 23.0	24 12.0	17 8.5	2 1.0	2 1.0	274 137.0
高齢者、児童等の所在不明時の緊急通報サービス	192 100.0	125 65.1	42 21.9	50 26.0	37 19.3	3 1.6	1 0.5	258 134.4
車乗車中の交通事故時の緊急通報サービス	177 100.0	170 96.0	36 20.3	15 8.5	14 7.9	2 1.1	1 0.6	238 134.5
車の盗難時の緊急通報サービス	165 100.0	156 94.5	23 13.9	5 3.0	6 3.6	2 1.2	3 1.8	195 118.2
その他の緊急通報サービス	10 100.0	6 60.0	0 0	0 0	0 0	0 0	4 40.0	10 100.0

（下段は%）

7 緊急通報サービスを利用したくない理由について（複数回答可）

（1）個人の場合

一般的に、「自分で通報すればよい」、「近くに警察、消防等がある」、「必要性を感じない」との回答が上位を占め、サービスによっては「高価であると思われる」の割合が高いものも見られた。

「どろぼう等の不審者が侵入したときの緊急通報サービス」については、「自分で通報すればよい」が43.1%、「必要性を感じない」が30.6%、「近くに警察、消防等がある」が29.4%を占めた。また、「高価であると思われる」が25.0%を占めたが、「高価であると思われる」が回答の25.0%を占めたのは「どろぼう等の不審者が侵入したときの緊急通報サービス」だけであった。

このうち、被害等経験者の場合、「自分で通報すればよい」が54.2%、「必要性を感じない」及び「高価であると思われる」が25.0%、「近くに警察、消防等があるから」が20.8%を占め、非被害等経験者の場合、「自分で通報すればよい」が41.2%、「必要性を感じない」が31.6%、「近くに警察、消防等があるから」が30.9%、「高価であると思われる」が25.0%を占めた。

また、「路上その他の外出先における犯罪、事故等又はそのおそれがあるときの緊急通報サービス」については、「近くに警察、消防等がある」が40.4%を占め、さらに、「必要性を感じない」が30.3%と、「自分で通報すればよい」の29.2%を上回った。「高価であると思われる」は12.4%であった。

これらのうち、被害等経験者については4人であったが、3人が「近くに警察、消防等がある」、2人が「高価であると思われる」、1人が「自分で通報すればよい」を挙げている。

「高齢者、児童等の所在不明時の緊急通報サービス」については、家族、親族等に高齢者、児童等がいないと回答した人を除くと、「必要性を感じない」が31.3%、「近くに警察、消防等がある」が28.7%を占め、「自分で通報すればよい」が27.0%であった。「高価であると思われる」は12.2%であった。

このうち、被害等経験者は4人であったが、2人が「自分で通報すればよい」、「近くに警察、消防等がある」、「高価である」、1人が「必要性を感じない」を挙げている。

「車盗難時の緊急通報サービス」については、車を所有していない又はほとんど運転する機会がないために利用を希望しない人を除くと、「自分で通報すればよい」が 52.6 %、「必要性を感じない」が 27.0 %、「近くに警察、消防等がある」が 22.6 %、「高価であると思われる」が 10.9 %であった。

このうち、被害等経験者は 1 人だけで、「自分で通報すればよい」を理由に挙げている。

「車乗車中の交通事故時の緊急通報サービス」については、車を所有していない又はほとんど運転する機会がないために利用を希望しない人を除くと、「自分で通報すればよい」が 44.8 %、「近くに警察、消防等がある」が 32.9 %、「必要性を感じない」が 22.4 %、「高価であると思われる」が 9.8 %であった。

このうち、被害等経験者の場合、「自分で通報すればよい」が 82.4 %を占め、「近くに警察、消防等があるから」が 41.2 %で、「必要性を感じない」は 5.9 %と「高価であると思われる」の 11.8 %を下回った。非被害等経験者の場合、「自分で通報すればよい」が 39.7 %、「近くに警察、消防等がある」が 31.7 %、「必要性を感じない」が 24.6 %を占め、「高価であると思われる」は 9.5 %であった。

「ガス漏れ・火災時の緊急通報サービス」については、「自分で通報すればよい」が 46.0 %、「必要性を感じない」が 23.0 %、「近くに警察、消防等がある」が 22.3 %を占めた。また、「センサーの誤報時等の対応が面倒」との回答が 18.0 %を占め、「高価であると思われる」の 15.8 %を上回ったが、これは「ガス漏れ・火災時の緊急通報サービス」だけであった。

このうち、被害等経験者は 3 人であったが、2 人が「自分で通報すればよい」、1 人が「近くに警察、消防等がある」を挙げている。

「自宅における急病時等の緊急通報サービス」については、「自分で通報すればよい」が 40.9 %であったが、「近くに警察、消防等がある」も 38.4 %と、ほぼ同様であった。また、「必要性を感じない」は 26.2 %であった。「高価であると思われる」は 9.1 %であった。

このうち、被害等経験者の場合、「近くに警察、消防等があるから」が 39.3 %と「自分で通報すればよい」の 35.7 %を上回り、「必要性を感じない」が 21.4 %、「高価であると思われる」が 17.9 %を占めた。非被害等経験者

の場合、「自分で通報すればよい」が 41.9 %、「近くに警察、消防等がある」が 38.2 %、「必要性を感じない」が 27.2 %を占め、「高価であると思われる」は 7.4 %であった。

「路上その他の外出先における急病等時の緊急通報サービス」については、「近くに警察、消防等がある」が 34.9 %と、「自分で通報すればよい」の 34.3 %を上回った。「必要性を感じない」も 33.1 %であったが、「高価であると思われる」は 12.8 %であった。

これらのうち、被害等経験者については 6 人であったが、「自分で通報すればよい」(3人)、「近くに警察、消防等がある」(2人)等の回答が見られた。

なお、「車乗車中の交通事故」、「どろぼう等不審者の侵入」については、被害等経験者の割合が、それぞれ 17.2 %、14.0 %と、「自宅における急病等」の 20.8 %に次いで高かったところであるが、被害等経験者のうち「車乗車中の交通事故時の緊急通報サービス」(車未所有者等を除く。)、「どろぼう等不審者の侵入時の緊急通報サービス」の利用を希望しない理由として「自分で通報すればよい」と回答した者の割合は、それぞれ 82.4 %、54.2 %とかなり高かったところである。

また、いずれのサービスについても、利用したくない理由として「プライバシーの侵害のおそれがある」を挙げた人は数%であったが、「高齢者、児童等の所在不明時の緊急通報サービス」において、家族等に高齢者、児童等がいない人を除くと、「プライバシーの侵害のおそれがある」ことを理由に利用したくないとした人が 7.8 %に上った。